

試験番号

女12

会場 グリーンアリーナ神戸 A コート

チーム名	総得点		総得点	チーム名
大同大学大同高等学校	21	10 11 — — — — — 7 9	16	高岡向陵高等学校
		7mTC		

3点差まで縮める。最後は21対16で試合終了。大同大大同が勝利し、3回戦の進出を決めた。

2017 年 3 月 25 日

記載者氏名 中野 健

ジャパネット杯 平成28年度 第40回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

13

男子 ・女子 2 回戦 ・準々決勝 ・準決勝 ・決勝

会場 グリーンアリーナ神戸 B コート

チーム名	総得点		総得点	チーム名
高水高等学校	39	20 19 — — — — 7mTC	5 12	聖和学園高等学校

堅守速攻を掲げる高水高校と1回戦で岐阜商業との接戦を制した聖和学園高校との一戦。

高水高校のスローオフで試合開始。開始17秒で高水11番キャプテン横田がミドルシュートで得点。チームに勢いをつける。その後は流れるようなパスワークでチャンスを作り出し危なげなく得点を重ねていく。聖和学園は反撃の切り口を懸命に探すか、高水の堅い守りと12番キーパー碓井の好セーブに阻まれ思うようにゲームを展開することができない。その間にも高水は様々なフェイントを駆使した1対1から攻撃を仕掛け、聖和学園ディフェンスの連携を断ち切っていく。一方的なゲームが展開され、20対5という大差で高水がリードしたまま前半を終えた。

後半に入り、聖和学園は13番1年生の杉本がチームの士気を上げる豪快なロングシュートで得点すると、攻守ともに息を吹き返した。そのまま巻き返しをはかる聖和学院であったが、高水は動じることなく落ち着いてプレーをする。終盤に入り聖和に疲れが見え始め、2番キャプテン石井が声を張りチームメイトを鼓舞する。しかし点差が縮まることはついになく39対17で高水が勝利した。

2017年 3 月 25 日

記載者氏名 日高 優一

ジャパネット杯 平成28年度 第40回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

10

男子 ・ 女子 2回戦 ・ 準々決勝 ・ 準決勝 ・ 決勝

会場 加古川市立総合体育館 コート

チーム名	総得点		総得点	チーム名
県立玉野光南 高等学校	23	9 ー 11 14 ー 7 ー ー ー	18	県立今治東 中等教育学校
		7mTC		

玉野光南2番平松の速攻による得点で幕を開けた2日目第4試合。そのまま勢いに乗りたい

玉野光南だったが、今治東は15番宇治村の強烈なカットイン、ミドルシュートにより得点を重ね、試合

は1点を取り合う打ち合いのゲームとなる。一時は玉野光南が3点をリードするが、今治東は粘り強い

DFからの速攻で得点を重ね前半は、今治東が2点をリードし折り返す。

後半に入り、前半の勢いのままリードを広げたい今治東であったが、玉野光南はGK渡邊のナイス

セーブからリズムを掴み5連取し2点をリードする。しかしその直後今治東は、警告等でコートプレー

ヤーが3人になった玉野光南の隙を突き3点を連取することに成功し、スコアを同点とする。さらに

その直後玉野光南は4番三村のミドルシュートなどで3点を連取し再びリードを奪う。その勢いは止ま

らず、7番戸山のシュートなどで必死に追いすがる今治東を振り切り、玉野光南が逆転でこの試合に

勝利した。

29年 3月 25日

記載者氏名 中村 健斗

ジャパネット杯 平成28年度 第40回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

男4

男子 ・ 女子 2 回戦 ・ 準々決勝 ・ 準決勝 ・ 決勝

会場 神戸国際大学附属高等学校

チーム名	総得点		総得点	チーム名
法政大学第二高校	36	18 — 15 18 — 12 — — — 7mTC	27	香川中央高校

1 回戦で法隆寺国際を破った法政大学第二高校と四国予選 1 位通過の香川中央が対戦。法政のスローオ
フで試合開始。法政藤田、大畠の 3 連続得点でスタート。しかし香川はディフェンスからの速攻で得点
を重ね、8 分過ぎに 4 対 4 の同点。更に 7 MT で香川 1 点を勝ち越したところで、法政のタイムアウト。
中盤前後はセット攻撃で互いに点を取り合う展開に。前半 21 分、法政藤田の得点で 3 点差に広がった時
に香川タイムアウト。25 分香川藤田退場の間に法政との差が 5 点まで広がるが、キーパー井原の好セー
ブや奥村の速攻があり香川 3 点ビハインドで前半終了。後半、香川川村のミドルシュートで先制点。そ
の後互いの攻防が続き、法政 2 点リードで 10 分が経過。後半 13 分、法政大畠のシュートで 29 対 23 に
なった時点で香川タイムアウト。香川は、谷のサイドシュートなどで得点するも、法政藤田を中心とす
るセット攻撃により 7 点差に広がり、後半残り 10 分の終盤へ。残り 5 分、8 点リードで法政タイムアウ
ト。香川は速攻で流れを引き寄せたい展開であったが、前半の得点差をさらに広げられ敗退する。

29 年 3 月 25 日

記載者氏名 廣野尚敏

ジャパネット杯 平成28年度 第40回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

男9

男子 ・ 女子 2 回戦 ・ 準々決勝 ・ 準決勝 ・ 決勝

会場 神戸市立中央体育館

チーム名

総得点

洛 北

21

6
15

—
—
—
—
—

9
9

7mTC

総得点

18

チーム名

不来方

この試合が初戦となる、近畿ブロック1位・全国総体3位の洛北。対するは、初戦を勝ち上が

った不来方。洛北スローオフで試合開始。洛北No.6 柳のシュートで試合が動き始める。洛北は3—

3DFを敷き、不来方OFを前で潰し攻撃の糸口を掴む。一方、不来方は粘り強いDFとキーパー

藤村の好セーブで洛北の速い攻撃をしのぐ。洛北3点リードの10分29秒、不来方TO。

ここから不来方が3連続得点で追いつくと、洛北TO。その直後、不来方No.7 大西のロングで勢い

に乗り、さらに大西のロング、前半終了間際のセットからNo.8 大坪のシュートと合わせ連続6得点。

不来方ムードの中、3点差で前半を終えた。

後半開始直後、洛北No.3 井上のループ、No.8 千葉の連続得点で同点に追いつく。一方不来方も3

連続得点で突き放す。シリシリと点差を縮める洛北は12分44秒、柳のシュートで同点に追いつ

く。しかし、不来方はNo.9 平の3連続得点で再度突き放す。粘る洛北は千葉が27分17秒、DF

に捕まりながらも押し込み同点。さらに28分25秒、No.4 木田のシュートで逆転。さらに木田の

ロング、要所でシュートを決めていたNo.2 林のシュートが終了間際に決まり、洛北が接戦を終盤の

大逆転でものにした。一進一退、お互い死力を尽くした好ゲームだった。

29年 3月 25 日

記載者氏名 沖野 勝洋

ジャパネット杯 平成28年度 第40回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

15

男子 ・ 女子 2 回戦 ・ 準々決勝 ・ 準決勝 ・ 決勝

会場 高砂市体育館 コート

チーム名	総得点		総得点	チーム名
県立松山工業	24	11 ー 12 13 ー 11 ー ー	23	県利府

松山工業のスローオフで始まった2回戦。開始1分松山工業 山本の速攻で先制。お互い一線

での堅い守りのなか、緊張感のある攻防の中、利府 物江のポストシュートを軸に利府が有利に

試合を進め、15分には9対5とリードする。16分 松山工業 山本のミドルシュート、速攻、

西川のカットインなど1点差に迫る。19分 利府 物江の速攻、千田のカットインで再び突き放

すが、26分 松山工業 土居のサイドシュート、山本のカットインシュートで1点差に迫る。

29分利府は7mスローを得るが得点できず12対11で前半を終了。

後半、立ち上がり利府の小澤のサイドシュートなどで2連続得点。松山工業も西川、山本の

2連続シュートで追いつがる。10分、松山工業 浅川の速攻が決まり、ついに同点となる。

16分から松山工業 浅川、西川などの5連続得点で20対16と突き放す。22分過ぎより

利府 千田、阿部、山口などのシュートが決まり追いつがるが、反撃及ばず松山工業が1点差の

接戦を勝ち取った。

29年 3月 25 日

記載者氏名 舟橋 正泰